

グラスルーツからの日米関係強化に関する国際交流基金の取組

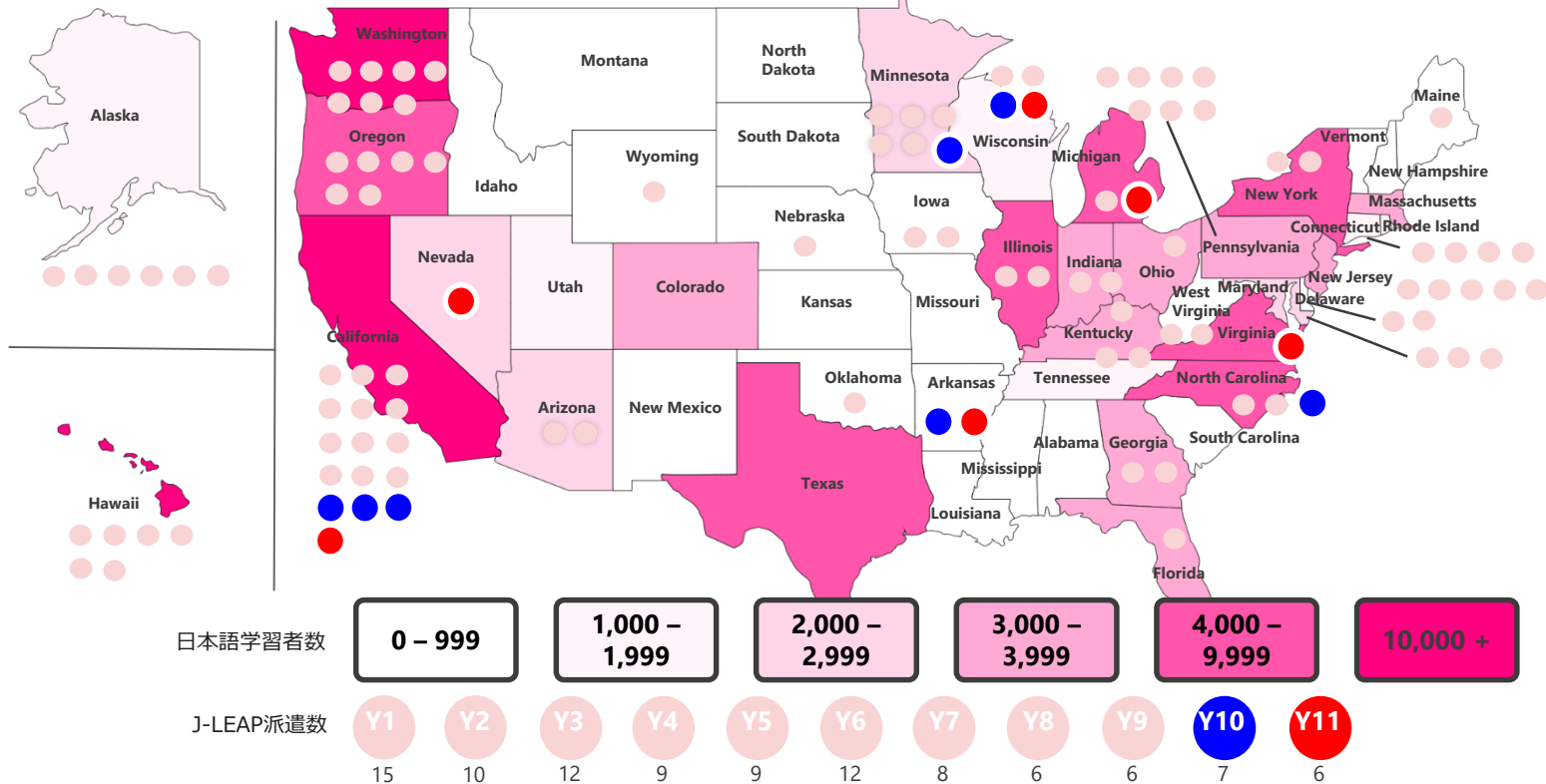
令和5年8月 国際交流基金 (JF)

日本語教育：米国若手日本語教員 (J-LEAP) 派遣

■ 米国における日本語教育や日本文化理解の促進を目的に、日本語講座を有する米国各都市の初・中等教育機関にアシスタント・ティーチャーとして若手日本語教員を1～2年間の任期で派遣。

令和4年度実績：第10期7名・第11期6名 ※令和5年度から派遣予定：第12期6名

J-LEAP派遣先と日本語学習者の分布 (2021年度海外日本語教育機関調査より)



文化を通じた草の根交流

■ 「全米桜祭り」 オープニング公演

ワシントンDCで開催される米国最大規模の日本文化祭に、奄美大島の唄者・里アンナとドラマー・佐々木俊之のユニット、マリンバ奏者・ミカ・ストルツマン、米国で活躍中のジャニーズユニット Travis Japan を派遣。会場で 1,960 名が参加、オンラインでのライブ配信視聴者数10万人超。



■ 日米草の根交流コーディネーター (JOI) 派遣

日本との交流機会が比較的少ない米国の南部・中西部・山岳部における対日関心の喚起や日本理解の促進および草の根交流の担い手育成を目的に、日本人コーディネーターを2年間の任期で派遣。

令和4年度から派遣中：10名（第20期）／令和5年度から派遣予定：8名（第21期）
過去の派遣人数：93名（2002～2022年度）



■ 日本庭園専門家グループ招へい

米国から14名を日本に招き、東京・京都の日本庭園を視察、国内の専門家と交流する場を提供（令和4年11月）。

参加者所属機関：北米日本庭園協会、ポートランド日本庭園（オレゴン州）、フェニックス日本友好庭園（アリゾナ州）、クランブルック収集研究センター（ミシガン州）、アンダーソン日本庭園、シカゴパーク、シカゴ植物園ウィンディシティ・ハーベスト、シカゴ植物園（イリノイ州）、サンディエゴ日本友好庭園、箱根基金、ジャパニーズ・ティー・ガーデン（カリフォルニア州）、シアトル日本庭園、プレーデル・リザーヴ（ワシントン州）、コモ動物園・温室公園（ミネソタ州）

■ 全米日米協会連合会 (NAJAS) への助成

全米各地に点在する日米協会を通じた草の根交流の促進、日米の市民ネットワークの強化を図った。

バイデン政権の重点政策等への対応・次世代人材育成

■日米グローバル・パートナーシップ強化助成

テーマ領域（「レジリエントな社会の構築」、「社会的包摂の実現」、「科学技術で豊かな社会の構築」）に関連した日米間の案件の助成。コロナ対策や気候変動に関連する事業も採用。

- （例）
- ・ COVID-19以後の再交流：社会的養護を経験した若者の癒し、レジリエンス、アドボカシーにおける日米協力
 - ・ 気候変動と食のシステムにおける若者の取り組み
 - ・ 沖縄とニューヨークの若者によるプラスチック汚染対策

■日米次世代パブリック・インテレクチュアル・ネットワーク事業

米国の政策・世論形成に関与することが期待される中堅・若手世代の日本専門家（研究者・実務家）を対象とした3年間の人材育成事業。令和4年度に実施した第5期の訪日研修では、共催のモーリーン・アンド・マイク・マンズフィールド財団とJFのネットワークを活かし、政治家・政府・企業や地方自治体、メディア、文化人等、幅広い相手方を訪問した。



■「日系アメリカ人リーダー招へいプログラム（JALD）」関連事業

令和5年3月、JALD 代表団の訪日に合わせて、「多様性と社会的包摂の推進—日系アメリカ人から見た米国の現状—」をテーマに、一般聴衆を対象としたシンポジウムを東京都内で開催。